

発寒リハビリテーション

回復期メインに機能転換

高負荷・高強度リハ提供へ

西区の発寒リハビリテーション病院（齋藤孝次理事長、吉岡和泉院長・108床）は、4月から病院名を変更するとともに、吉岡医師の院長就任と併せて、メイン機能を回復期リハビリにリニューアルした。高負荷・高強度リハビリで、患者の思いを実現する医療の展開を図っていく。

同病院は、1972年たのをきっかけに、名称に発寒中央病院として開院。療養病床を回復期院。以来、一般病床と療養病床のケアミックスでリハビリ室は改修してスリハビリも展開し、地域医療に貢献してきた。孝仁会グループに入っ

たのをきっかけに、名称を変え、療養病床を回復期リハビリ棟に転換し、リハビリ室は改修してスリハビリも展開し、地域医療に貢献してきた。孝仁会グループに入っ

た吉岡医師は、和歌山県的那智勝浦町立温泉病院に長く勤務してきた。同病院長が過疎化や医師不足に悩まされる中、14年前から最新の知見に基づく高負荷・高強度リハビリを行ってきた。

同リハビリは、医師と

浦町の人口の2倍となる4万人にまで増加。地域医療の維持、発展にもつながってきた。

こうした実績を孝仁会の齋藤理事長が高く評価。発寒中央病院がリハビリを中心とした機能を充実させ、さらに地域に貢献できる病院づくりを進めるには、吉岡医師がこれまで培ってきた技術が必要との強い要望を受けて、院長就任を決意したという。

長年、一緒にリハビリを提供してきたスタッフも移籍。さらに、発寒中央病院のリハビリスタッフを那智勝浦町立温泉病院に招いて研修を行うなど、昨年からの準備を進めてきた。

新規採用者も含め、リハビリスタッフは20人を超え、以前の2倍を超える陣容に。吉岡院長は「リハビリの魅力はチーム医療。早期からしっかりとリハビリを行えば、十分な効果が得られる」といい、高負荷・高強度リハビリの提供に意欲を見せる。

Hospital & Clinic



リハビリ室を統合・拡大

同じ孝仁会グループの札幌孝仁会記念病院などからも患者受け入れているほか、周辺地域からの紹介患者も増えており、「スタッフは病院リニューアルに当たり、モチベーションが高い。数週間、院内の雰囲気は大きく変わった」と手ごたえを語る。今後は、地域住民だけでなく、広く道民にリニューアルした病院を周知したいほか、市内外の医療機関との連携を強化していく考えだ。